

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 斐太高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年10月11日(水) 14:00~16:00
- 3 開催場所 斐太高等学校 有斐会館 会議室
- 4 参加者

会長	南 賢太郎	前育友会長(欠席)
副会長	水口 浩美	高山市国府支所次長
委員	折敷地 淳	育友会長
	坂井 歩	高山自動車短期大学学長
	番場 さとみ	前育友会役員
	廣田 早苗	有斐会副会長
	松井 睦子	育友会役員
	丸山 純平	高山市議会議員
	溝際 清太郎	株式会社駿河屋魚一代表取締役社長 (欠席)
学校側	中村 浩一	校長
	石原 秀三	事務部長
	野中 明子	教頭
	平野 昌之	教務部長
	駒澤 誠二	進路支援部長
	富田 喜友	生徒支援部長
	清水 潤	特別活動部長
	中川 鉄紀	探究活動推進部長
	足立 悠輔	教諭
	板屋 彩佳	〃
	奥田 貴博	〃
	今地 滉人	〃
	北川 佳奈	〃

5 会議の概要(協議事項)

(1) 前期の取組の考察と後期への課題と取組

以下の資料を踏まえて説明

[資料1]令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書(中間報告)

[資料2]学校評価アンケート結果(生徒:全体・学年別、保護者等)

(情報モラル教育)

意見1:生徒のSNSの使用状況について、学校ではどれくらい認識されていて、どのように指導しているのか。

⇒教員の知らないところで様々な事態が起きていることが予想されるため心配し

ている。定期的な指導は行っていないが、前期は集会等で全体に向けた講話を行った。後期は個々の生徒が問題意識を持てるような指導を行いたい。

意見 2 : SNS の使用についての指導は、外部の専門家の講話も効果的である。先日、地区高等学校 P T A 連合会が主催した指導者研修会での外部講師による情報モラルに関する講話は非常にわかりやすく、家庭でも話題にできた。

意見 3 : SNS の使用に関する事件が起きているが、SNS で動画を拡散させたことが悪いのではなく、本来やってはいけない行為をしているということにもっと注目すべきである。情報モラルと同時に人としてのモラルの問題として指導していく必要がある。

意見 4 : SNS の使い方については、子どもにスマートフォン等を買って与えている保護者が教えることができるとよいが、保護者も分からないことがあるため、学校が一緒になって指導してほしい。

意見 5 : 具体的な事例を生徒に話すと問題意識を持ちやすいのではないかな。

(卒業後の生活に向けた支援)

意見 6 : 化粧の仕方や銀行口座の開き方のような社会人のマナーとして必要なことを高校生の時に教えてもらえるとよい。

意見 7 : 高校卒業後は、ほとんどの生徒が親元を離れて生活する。生徒の要望があれば、卒業後の生活で必要になることについてミニ講座を設けてはどうか。

意見 8 : 企業に依頼することもできる。

意見 9 : 育友会 (P T A) が主催することも考えられる。

意見 10 : 金融教育、消費者教育として学校でも取り組んでほしい。

意見 11 : 情報モラルに係わる教育は重要。高山に住んでいる今はあまり関係ないかもしれないが、高校卒業後の生活で、知らないうちに闇バイトや違法薬物の使用等の事件に巻き込まれる可能性がある。

意見 12 : 実態を知らないと、誘われたときに断ることができないのではないかな。

意見 13 : 誘われても疑問に思うことは、一人で判断することなく相談することが大切である。高校生時代は特に保護者からの言葉かけは反発されてしまう。

⇒前出した外部講師によると、親が子どもに「だめだ」といっても伝わらないので「大丈夫か？」という問いかけをして、子ども自身に考えさせて気付かせることが大切とのこと。危険から逃げることができるということも大切であるとのこと。

意見 14 : 実際に親元を離れた学生を受け入れている立場ではどう感じているか。

意見 15 : 学生の活動を把握するのは難しい。相談者として、友人や先輩、学生でわからないときは担当の教員がいる。何かあったときに相談できる窓口をたくさん持っていることが大切であるし、学校としてもいかに早く情報をつかんで対応できるかが大切であると考えます。

(主体的な活動や探究活動への参加)

意見 16 : 総合型選抜、学校推薦型選抜での受験機会が増加していることと、学校評価アンケートで探究活動やボランティアに関する意識が低いということに関して、自

分の好きなことを活かして探究ができたり、ボランティアができたりすればモチベーションは高まる。また、取り組んだことを進路決定につなげることができる、さらに学んだり参加したりする意欲も高くなると考える。

(本校の生徒に求める力)

意見 17：学力はもちろんつけてほしいが、力をつければつけるほど地元に戻ってこなくなるのがこの地域のジレンマでもある。

意見 18：人生百年時代にあり、ひたすら学び続けていくことが必要。自ら自身の知的好奇心に基づいて研鑽を積んでいくような力が求められている。これは探究的な学びにもつながるところだと考える。

⇒学ぶ意義を語っていく必要があるのではないかと考えている。教員だけではなく、いろいろな立場の方の話聞く機会を設けたい。

意見 19：本校の生徒はいろいろな力を持っている。地元に戻ってきてほしいとも思うが、自分の人生を大切にしてほしい。

(2) 若手職員との懇談

若手職員から見る本校の生徒の様子の説明

意見 20：働き方改革について、若い教員の立場から、残業が多いとか部活動とプライベートとのバランスのとり方が難しいとかの悩みはあるか。

意見 21：本校について理想とするところを聞かせてほしい。

～懇談内容は省略～

(3) 学校運営についての提言と助言

意見 22：探究学習のあり方には正解がなく、多くの高校が試行錯誤しているような段階ではあるが、総合型選抜入試が広がり、大学でも探究学習が推進されているため、高校での探究学習の意味や意義を生徒ばかりでなく保護者にももっと伝えていく必要がある。若い職員の提案で変えることもできるのではないか。

意見 23：教員不足が言われているが、高校では教員数は充足されているのか。

⇒本校は充足しているが、学校によっては定員が満ちていないところもあると聞いている。

意見 24：いろいろな才能を尊重するのが斐太高校だと考える。個々の生徒の得意分野を伸ばして社会で活躍できる生徒を育ててほしい。

6 会議のまとめ

本運営協議会は、分掌長による学校側の前期の取組や、若手教員から見た生徒の様子を聞いて感じた本校の課題について、委員が互いに意見を出し合い、解決に向けての方策を探った。教育を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、学校の課題を共有し、生徒の将来を見据え日々の教育活動をどう進めたらよいかを学校と地域が一体となって考えるコミュニティ・スクールのありようを目の当たりにする会となった。